

くにたち点字の会

令和2年度国立市市民表彰

教育文化功勞



くにたち点字の会

昭和47年から点字講習会を実施。点字翻訳活動や小学校での点字講習会を行っている。現在、会員は15名。

活動の中で嬉しかったことはありますか。

やはり点訳したものを読んでいただけたり、お役に立っていると感じられると嬉しいです。また、小学校での点字講習会では生徒さん達が熱心に活動して、最後に「とても楽しかった!」という感想を聞かせてくれるのが励みになっています。



▲小学校での点字講習会の様子

くにたち点字の会の活動の起源について教えてください。

昭和46年、国立市在住の塩川さんの発案で、市内の松本寛治、喜代子ご夫妻の賛同と協力を得て、絵本などを点訳する会が発足しました。昭和49年、同会から引き継ぐ形で、市内在住の中沢敦さんが中心となり、主に市内在住の視覚しょうがいしゃのために活字書の点訳や視覚しょうがいしゃと会員との交流を目的とするボランティアの会として発足し、現在に至ります。

活動内容について教えてください。

毎週木曜日の午後、福祉会館での例会では、各自が自宅で点訳してきたものの読み合わせ等の活動をしています。

視覚しょうがいしゃから依頼のあった書籍や説明書、カレンダー、楽譜や福祉協議会発行の「まごころ」などを点訳しています。

また、東京都多摩障害者スポーツセンターやCILくにたち援助為センターからの依頼もあります。毎年、市内の小学校で総合学習の時間に点字の講習会をしたり、夏休み中に小学生対象の点字講習会も行なっています。

今後の課題はありますか。

会員の高齢化に伴って活動に参加できる人が減ってきているので、会員を増やすのが課題ですが、容易ではありません。

福祉協議会で隔年に行っている点字講習会の修了者が入会しやすい態勢づくりとPRを是非お願いしたいところです。また、市内在住の視覚しょうがいしゃのニーズに応えるよう点訳活動の対象を広げたいと思っています。